

Small Story in Kamijima

かみじま発 スモールストーリー



食べものを 届けるしごと

お話をきかせてくれた人

おいしい農園 農園主

大井 十和子さん

大阪生まれ大阪育ち。大阪で事務の仕事をしていましたが、島での暮らし、島での農業に憧れを持ち、2011年岩城島に移住し、島おこし協力隊として2年間活動する。その後、2013年に新規就農を果たし、町の新規就農支援を受けながら、農家として自立すべく奮起している。好きな食べ物は、えだまめ。嫌いな食べ物は、グリーンピース。

極早生みかんとレモンの園地。ひとり、黙々と作業するのが好きだという大井さん。

おいしく、たのしく、日々のごはんを食べられること。それだけで人生はずいぶん豊かになる。

しかし、自然の恵みを私たちの食卓に届けてくれる農家、漁師の数は、著しく減少している。農業従事者の平均年齢は65.8歳、35歳未満は5%。日本の人口の3%に満たない約260万人が日本の農業を支えている。後継者不足、高齢化から、日本全国には埼玉県と同じ面積の耕作放棄地が広がっている。(2010年10月現在)

「青いレモンの島」として、早くから国産レモンの栽培に取り組んできた岩城島でも、状況は同じだ。むしろ、離島ということでさらに厳しい状況にある。そんな中、女性ひとりで農家として生きる道を歩み始めたのが大井十和子さんだ。都会での暮らしから、農の道を選んだその理由をお伺いした。

食べものは どこからやってくるのか

—農業に興味をもつようになったきっかけは？

具体的なきっかけはないのですが、自分が食べているものはどこからくるのか、どうやって育つのか、というような「食への興味」は昔からわりとあったように思います。それで、大阪で会社勤めをしていたときに、当時住んでいた市の市民農園みたいな取り組みに休日だけ参加するようになったんです。他のメン

良、阿蘇など色んなところに行きましたよ。印象深いのは、阿蘇と奈良かな。どちらも、受入れ農家さんがすごくいい人で。作業内容よりも、迎えてくれる農家さんの人柄の方が、記憶に残りますね。

普段の会社勤めでは、朝、職場に行き、それから座りっぱなしでパソコン仕事をして、帰るころには日が暮れていて。顔を合わせるの、だいたい毎日同じ人という生活をしていました。そんな生活だったので、WWOOFの宿の方や同じように農業や食に興味があって来ている人たちとの出会いはすごく新鮮

バーは、おじいちゃんおばあちゃんばかりで若い人は私だけでしたが、孫のようにかわいがってもらって楽しかったですよ。週1回、みんなで集まって農作業をして。そのときは野菜づくりをしていたのですが、農作業って楽しいな、好きだなと思うようになっていったんです。

それで、会社の休暇を使ってWWOOF(ウーフ:金銭のやりとりなしで、「労働力」と「食事とベッド」を交換する仕組み)やワーキングホリデーに参加するようになりました。北海道、静岡、奈



でした。農作業だけではなく、会社勤めでは普段会わないような人たちと親くなれるという環境が楽しかったですね。

みかん収穫体験で 岩城島へ

—岩城に来たきっかけは？

本当は、宇和島でみかん収穫を体験したいなと思っていたんですが、探したときには、募集が終わってしまっていて、心はすっかりみかん収穫の気分になっていたの、他にみかん収穫が

できるところはないかな〜と思って調べてたところ、たまたま見つけたのが上島町のワーキングホリデー制度だったんです。2011年2月のことでした。

それで岩城島に滞在して、1ターン農家である古川泰弘さんはじめ、他の農家さんにお世話になることになったんです。この古川さんとの出会いは、大きかったですね〜。とにかく前向きなんです。それまでも、WWOOFの宿の方と「田舎暮らしがしたいんですよ」って相談してきたのですが、どうしても「家がない、仕事がない」って話になって、な

かなか一歩が踏み出せなくて。でも、古川さんは「島にも仕事はある！」って言うしてくれたんです。その言葉があったからこそ、「この島でなら暮らしていけるかも」と思えたんです。



大井さんが暮らす岩城島。
人口2,146人(2014年7月31日現在)。

したいことがあるなら しないともったいない！

そんなことを考えていたときに起こったのが、東日本大震災でした。大阪は被災をしたわけではないけれど、テレビの映像を見たりして、今まであったものが一瞬で無くなってしまう様子に衝撃を受けました。人生はいつ、何があるかわからないんだって改めて思ったんです。私は今、健康で、元気に動けて、背負うものがなくて、したいことをできる環境にあるんだと思ったんです。したいことが

あって、できる環境にあるのならば、するしかないって。そう思いきれたのは、やはり震災の影響が大きかったですね。震災がなければ、今もまだ色んなところにWWOOFに行くだけで、移住を決意するまでには至っていなかったかもしれません。

それで震災の後、3月にもう一度岩城に来ました。1ターン農家の先輩に、「まだちょっと迷ってるんですけど・・・」と相談したら、「とわちゃん(大井さん)、そう私たちに言ってる時点で、もう心は決

まってるんでしょ」と言われて、たしかにそうだなとハッとしました。古川さんはじめ、1ターンの先輩農家さんの存在は、心強かったですね。それで、大阪に帰って心を決めて、古川さんに電話で決意を伝えました。

いきなり農家にはなれないので、5月に仕事探しに来て、古川さんの紹介で色々な方に会わせていただきました。それで役場に寄ったときに教えてもらったのが、島おこし協力隊でした。これはぴったりだなと思って、応募したんです。

—ご家族の反応は？

当然、両親は大反対。田舎で、しかも女ひとりで農業するなんて無理！という反応でした。でも、私が決めたら聞かないって知ってるから、とりあえず現地を見てみてからということになって、両親を島に滞在させました。そうしたら、想像と違ったみたいで、納得してくれたんです。どうやら、「島」というと、さびれた漁村のようなイメージをもっていたようですが、以外にきれいで明るかったので安心したみたいです(笑)。



協力隊の活動で、子どもキャンプ「かわうそキャンプ」で子どもたちと一緒に作業する大井さん。

協力隊の活動で 得たもの、できなかったこと

—それで、協力隊としての活動が始まったわけですね。

はい、協力隊になって、農家さんの手伝いと自分の勉強のために、約10軒くらいの農家さんのところに行かせてもらうようになりました。行かせてもらう農家さんは、町内放送で呼び掛けたり、口コミで紹介してもらいました。一口に柑橘農家といっても、それぞれスタイルがあるんです。育てている品種も違うし、有

機や無農薬といった農法の違いもあります。売り先やつける価格も違いますし、ポリシーも違う。技術的なことはもちろん、そのスタイルの多様さを知ることができたのは、協力隊ならではのメリットだったと思います。通常の研修なら、一軒の農家さんにずっとお世話になることになることが多いですから。協力隊だからこそ、地域の色々な農家さんのところで、学ばせて頂くことができました。

また、所属していた産業振興課の業務で、各地の物産展を手伝うこともあり

ました。お客さんの反応を直接目にすることができ、物を売るということを学びました。これも、協力隊ならではの経験だったと思います。

自分の園地がほしい

そうして、協力隊として活動していましたが、だんだんと手伝うだけではなく、自分の園地を持ちたいという気持ちが強くなっていきました。協力隊は、役場所属で地域のために活動する立場です。勤務時間中は、自分の畑の作

業をするわけにはいきません。協力隊をしながら、自分の畑を持つということは難しいと思いました。そんな時に、青年就農給付金(※)のことを知りました。協力隊ではなく、こちらの給付金を頂きながら、農家として立ち立てできるようにしていこうと思ったのです。

※青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、就農前の研修期間(2年以内)と農業経営が不安定な就農直後(5年以内)の所得を確保する給付金

太陽の光をたっぷり受けて、すくすく育つみかんたち



協力隊を3年間してからでも遅くないのではというアドバイスも頂きましたが、柑橘の苗木が育ち、収穫できるようになるまでには時間がかかります。だから1年でも早く、自分の園地を持ちたいという気持ちがあつて、1年早く卒業させてもらいました。



時間のつかい方は自分で決める

一園地を探すのは大変でしたか？

土地はいっぱいあるのですが、役場や農業委員会が管理しているわけではないので、園地を探すのにはだいぶ苦労しました。「農地を探しているんだけど…」と知り合いに片っ端から声を掛けて、探していきました。

この園地には、元々、極早生みかんとレモンが植えられていました。管理をやめてから3年ほどの園地で、木々が

草で覆われてしまっている状態でした。草が茂りすぎて、草刈り機では刈れなかったので、地道に手で刈っていきました。草に覆われていた園地に、木が1本見えるようになり、2本見えるようになり。いつか終わりが来ると思ったら、そんなにしんどくはなかったですよ。

一手作業で！？一人でですよ？私なら耐えられません・・・

私は逆に、人と作業するほうが合っていないかな。もともと集団行動は苦手なので、自分のペースで作業できる農業は、自分に合っているなと思います。

Before

草に覆われたレモンの木(左側)



After

草がなくなり、日光を受けて気持ちよさそうなレモンの木



それに、農家には土に触れる作業だけではなく、簿記や梱包、チラシづくりなど、様々な仕事があって、1から10まで自分で決めて予定を組めます。草刈りに飽きたら、気分転換に別のことをして、また草刈りをするというような感じで、自分で時間の使い方を決められるんですね。

毎日変化する命に 寄り添う喜び

—農家としての喜びは？

まだまだ駆け出しなので、偉そうなこと

は言えませんが、自分のしたことで変化を感じられることですね。草を掃ってあげたレモンの木が、日光を受けて、新芽を出してきたことや、植えた苗木が日々成長している様子を見ると、嬉しいなと思います。

また、ありきたりですが、お客さんが美味しいと言ってくれるのは嬉しいし、そう言ってもらえるものをつくりたいと思います。いろんな職業の方が、お客さんの笑顔がやりがいだとかって言うじゃないですか、それってきれいことじゃないってうがって見てたところもあったのですが(笑)、やっぱりお客さんから美味しい

って言われるのは素直に嬉しいんですよね。まだまだ駆け出しですが、その嬉しさを実感しています。

都会の距離感、 田舎の距離感。

—これからの目標は？

自分のスタイルを築くことが課題ですね。何をどう育てて、どう販売していくか。まだ手探りなのが正直なところですよ。

—柑橘栽培が好きなんですか？

そうですね。今は野菜も楽しいなと思うようになってきましたが、なぜか樹が

好きですね。樹を触っているのが好きです。赤と青のどちらが好きと言われて、赤と答えるような直感的な感覚で。

なんで農業なのかって、よく聞かれますけど、私の場合は好きだなあ、合っているなあとか答えようがない感じですね。島のおばあちゃんたちからも、「パソコンができるのに何で農業なんてするんか？」って言われますが、都会に戻りたいとかは全然思わないです。満員電車とかか…もう乗れないですね。冷静に

考えると異常ですよ。身体は触れ合っているけど、心は遠くて。不自然だなあと思います。島の暮らしは、面倒なこともあるけれど、自分に素直に、自然体で生きられるというところが、やっぱり自分には合っているなあと思います。



岩城島は、「青いレモンの島」のキャッチコピーで島おこしに取り組んできた島。

おい農園の情報は、
Facebookでチェック！

 Like

<https://www.facebook.com/oifarm0905>



Towako's Recipe

賀茂ナスの田楽



材料	賀茂ナス	1個	砂糖	大さじ1・1/2
	揚げ油	適量	酒	小さじ2
	白みそ	25g	みりん	小さじ1
	赤みそ	9g		

- ①田楽みそを作る。厚手の鍋に材料を合わせて弱火にかけ、混ぜながらゆっくり練り上げる
- ②賀茂ナスは上と下を少し切り落とし、皮を縞にむく。4~5cmの幅に輪切りにする。切り口の片面に十文字の切り込みを入れ、水に放してアク抜きをする。
- ③揚げ油を熱し、ナスの水気を十分に拭き取って低めの温度でゆっくり揚げる。
- ④揚げたナスに、田楽みそを塗り、中央に炒りごまを振る。



こんなところ
撮らんとって〜



さすが女子！
農作業用具も
色にこだわってます



Farmer's Life



ここから見る
海が好き
なんよ〜



丁寧に植えられた野菜たち。
人柄がでます



島のおかあさんに
もらったレモンの
キーホルダー

Information 上島町の就農支援

上島町には、大井さんの移住のきっかけとなったワーキングホリデー制度をはじめ、就農を支援する様々な制度があります。

Step1

ワーキング ホリデー

内 容 1週間のうち3日間の農業体験と3日間の島体験
対象者 60歳までの方
受入農家 主に柑橘・野菜栽培・養豚農家
研修費等 町から5,000円/日支給（援農3日分15,000円）
※保険は個人負担

Step2

お試し就業 研修事業

研修内容 20日間（期間は1年以内）、農漁家で就業研修を実施
対象者 おおむね50歳までの方（※書類審査あり）
受入先 主に柑橘・野菜栽培・養豚農家
研修費等 町から5,000円/日支給（20日間の就業日）
※保険は個人負担

Step3

インターン 事業

研修内容 2年以内、農漁家での作業実習等を実施
対象者 おおむね50歳以下の者（※書類審査・面接あり）
条 件 農林漁業の担い手として10年以上継続して居住
受入先 町が指定する農漁家
研修費等 町から10万円/月支給 ※保険は個人負担

2タイプあります。各種条件がありますので、詳しくは町HPにて

◆1 準備型

愛媛県が認めた農業大学校等で研修を受ける就農者に、最長2年間、年間150万円を給付

◆2 経営開始型

新規就農される方に、農業を始めてから経営が安定するまで最長5年間、年間150万円を給付

 上記制度に対するお問い合わせ先 上島町役場 産業振興課定住促進事務局
【Tel】 0897-75-2500 【Mail】 sangyou@town.kamijima.ehime.jp

空き家 情報

上島町 空き家バンク制度

<https://www.town.kamijima.lg.jp/soshiki/9/627.html>



特定非営利活動法人頼れるふるさとネット空き家情報サイト

<http://tayofuru.wix.com/shimagurashinet>

島で生きるしあわせ

スモールストーリー最終号、お楽しみいただけましたでしょうか？最終号は、協力隊として共に活動してきた大井さんにご登場いただくこと、決めていました！私より一年早く協力隊を卒業し、新米農家として日々頑張っている大井さんが、どんな思いで農業を生業としているのか、そのストーリーをお伝えしたいと思いました。

そして、私も昨年九月末で任期満了となり、今は夫とふたりで百姓をしています。大井さんと違い、私の場合は農業がしたくて島に来たわけではなく、都会の暮らしにはない豊かさやたくましさ求めて島にやって来たのですが、結局、行きついたのは「農」そして「食」だったのです。きっかけは、夫が始めた自家用の小さな畑。今まで知らなかった農業、そして、食を取り巻く様々な問題を知ることになり、自分たちが違和感を感じていた社会のあり方とこれらの問題が深く結び付いていることに気づきました。

たとえば、種。昔のお百姓さんは、自分で種を採り、次の年にその種をつかうというサイクルを繰り返してきました。固定種・在来種と呼ばれる、地域の風土に合った品種が代々受け継がれ、個性豊かで美味しい様々な品種が日本中

にたくさんありました。けれども、戦後、化学肥料と農薬、そしてビニールハウスが導入され、食糧増産が図られます。そして、「一代限り」は揃いがよく効率的な栽培ができるF1種という品種が主流になっていきます。F1種は、「一代限りは優秀」という特徴なので、種を採っても次の年も同じようには育ちません。それに、種採りは、手間も時間も場所も必要。こうして、種採りをする農家は激減し、化学肥料と農薬と種を毎年買い続けるシステムが定着してきます。（詳しく知りたい方は調べてみてくださいね！）

多様性や個性、伝統は非効率だからいい？いかに効率的に「儲けるか」が大事？その先に、どんな幸せがあるのでしょうか。昔ながらの品種は、揃いは悪いし、病気になるたりもするし、収穫量は少ないし、効率はよくない。でも、風味が力強くてもっとも美味しいんです。そして、種を採り、次の世代に命のバトンをつなぐことができます。次の世代に命をつなぐこと。それは種の話だけではありません。島の暮らしも同じ。先人たちが残してくれた豊かな自然、その中で育んできた文化、知恵を後世に伝えていくこと。その当たり前のことを

私もしていきたいと思います。人の個性や地域の個性よりも、効率を重視して、使い捨て、大量生産大量消費という「都会の幸せ」。そんな自然の営みに反した方向に進んでも、そこに幸せな未来はないと思うからです。

だから、うちの農園（まるふ農園といいますが）では、無農薬・無化学肥料で固定種にこだわって野菜の栽培をしています。もともと百姓は、「百の作物をつくるから百姓」、「百の仕事をするから百姓」というのだそうです。自給自足をモットーに、いろんなことをしながら持続可能な暮らし方をしていきたいと思っています。

大井さんが話していたように、自分の働き方を自分で決められることは気持ちがいいことです。必ず船に乗らないと来ることができない上島町の島々には、「不便」だと思えることもあるかもしれませんが、小さな島々の中で幸せに暮らす方法を島の先人たちは実践してきました。ないものをねだるのではなく、あるものに目を向けて、知恵を働かせて、身体を動かして生きていけること。本誌スモールストーリーにご登場いただいたみなさんも、そうやって与えられた環境のなかで自分で動いて、すべきことをしてこられた方ばかり。そんな素敵な人たちがいっぱいいることが、この町の誇りであり、そこに「島流の幸せ」のヒントがあるのではないかと思います。

最後に・・・「島おこし協力隊」という縁でこの上島町にやってきて、多くの方々に支えていただきながら、任期を終えてもこうして島に暮らし続けることができている。本当にありがとうございます。そして、これからもどうぞよろしくお願いたします。


About me

文と写真と編集 ふじまき みづか（まっきー）

1983年山梨県生まれ。A型。ふたご座。国際基督教大学教養学部国際関係学科専攻。山梨→東小金井→フィンランド→吉祥寺→上島町生名島→上島町刈島

都内マーケティング会社に勤務のち、2011年10月より、愛媛県上島町（人口約7400人）の離島に移住。島おこし協力隊として、3年間活動し、2014年9月末に卒業。

協力隊卒業後は、パートナー（夫）とともに、「まるふ農園」として農業を柱に生計を立てる。野菜の美味しさをつたえる食堂、農家民宿もオープン予定。

まるふ農園Facebook  <https://www.facebook.com/marufu.farm>





click

本誌の
コンセプト

『スモールストーリー』 ご愛読ありがとうございました！
バックナンバーは、引き続きご覧いただけます。

【紙で読む】 弓削総合支所、弓削港、せとうち交流館、弓削商船図書館・寮、
弓削高校図書室、弓削中学校、しまでカフェ、やよみ亭、
立石港、岩城支所、岩城中学校、よし正、魚島支所

【ネットで読む】 上島町島おこし協力隊のブログ
<http://setouchi-k.town.kamijima.ehime.jp/blog/sima/>

※2015年2月現在